

第4回 伊丹市総合交通計画策定委員会

議 事 録

伊丹市総合交通計画策定委員会

平成 27 年度 第 4 回 伊丹市総合交通計画策定委員会

- 1 日 時 平成 28 年 2 月 18 日（木） 15:00～16:00
- 2 場 所 伊丹市防災センター（伊丹市役所東館） 2 F 災害対策本部会議室
- 3 出席者 **【委員】**
秋山会長、榎木委員、谷口委員、奥野委員、野口委員、前川委員、西本委員、辻脇委員、木下委員、岩原委員、松尾委員、大池委員、橋本委員、大石委員
※ 富田委員、村上委員、河崎委員、寺嶋委員、上畑委員、梶野委員は欠席

【事務局】
都市交通部 榊村参事、交通政策室 真田室長、道路保全課 大前課長、
道路建設課 阪上課長、交通政策課 乾課長
- 4 傍聴者 2 名
- 5 次 第
 - 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 議事録署名委員の指名
 - (2) 「伊丹市総合交通計画（素案）」パブリックコメントの結果について
 - (3) 「伊丹市総合交通計画（案）」の最終確認について
- 6 閉 会

議 事 記 録

1 開会（省略）

2 議事

(1) 議事録署名委員の指名

会 長 : 今回は辻脇委員と木下委員に署名をお願いしたい。

(2) 「伊丹市総合交通計画（素案）」パブリックコメントの結果について

＜ パブリックコメントの結果について説明 ＞

会 長 : パブリックコメントでのご意見に対する市の考え方は公表するのか。

事務局 : パブリックコメントの結果は、3月2日～31日の30日間、ホームページやパブリックコメントを実施した支所等で、この考え方も含めて公表する。

(3) 「伊丹市総合交通計画（案）」の最終確認について

＜ 計画の最終案について説明 ＞

会 長 : 資料③「伊丹市総合交通計画（案）変更箇所一覧」22の②で、p. II-2の〔施策概要〕の“ボランティアの指導員を設置し、”を“ボランティアの指導員を委嘱し、”に修正したとあったが、そうであるなら、〔施策〕の「自転車安全利用啓発指導員の設置」も「自転車安全利用啓発指導員の委嘱」とした方がよいのではないか。

事務局 : 〔施策〕も「自転車安全利用啓発指導員の委嘱」に修正する。

会 長 : p. I-63, 64「期待される効果」の＜学生・生徒＞、＜就業者＞のところで、“バスロケーションシステムの情報提供により、バスが時間通りに来なくても到着時間の目処がたち、安心してバスを待つことができます”とあるが、そこまで言わなくてもよいのではないか。“バスロケーションシステムがあればバスの到着時間がわかりやすく安心感がある”ということによりよいのではないか。

事務局 : 簡素でわかりやすい文章に修正する。

会 長 : p. II-33「空港を活かしたまちづくり」の〔現状・背景〕で、“ポスター掲示やチラシ配布等によりPRしていますが、伊丹空港行きバスの利用者は伸び悩んでいます”とあるが、伸び悩んでいるのか。

事務局 : “大きくは伸びていない”というような表現に修正する。

A委員 : p. I-35にも“伸び悩んでいる”という表現があるので、同じように修正した方がよい。

お伺いしたいのだが、p. I-35にあるように、蛍池を経由するより伊丹市営バスを利用した方が安くて速いにも関わらず、何故利用者が増えないのか、現時点で考えられる理由があれば教えていただきたい。

事務局 : 理由のひとつとしては、十分に周知出来ていないということがあり、現在、いろいろな方法で周知に努めているところである。

B委員 : 市営バスは距離として短く、近くから乗られるお客様が非常に少ない。

事務局 : バスが路線バスであり、荷物を載せづらかったりするために、観光客の方に利用してもらいにくいことがある。この計画にも入れているが、専用バス等を走らすことによって利便性が向上し、利用者が増えていくのではないかと考えている。

A委員 : 感覚的なものであるが、伊丹市民以外には空港行きバスの存在自体が浸透していないのではないかとと思われる。今後、伊丹空港ライナーを実現されるスタートの際には、もっとマスコミ向けの仕掛け等を考え、うまくマスコミを巻き込む形でPRしたらよいのではないかと。また、特に大都市において、電車を使われる方はあまりダイヤを意識せずに駅に行かれると思うが、バスになるとどうしてもダイヤが気になる。出来れば伊丹空港ライナーは出発のダイヤを、例えば毎時0分や30分など、わかりやすい時間設定をされると利用者の利便性がよいのではないかと。

会 長 : 「ハイテク駐輪場」で、「地下」となっていたり、「地下（地上）」となっていたりするが、これはどういうことか。

事務局 : ハイテク駐輪場については、設置する場所によって、「地上」「地下」と付けたいと思っているが、p. II-2の〔施策概要〕では、現在整備の検討を進めているJR伊丹駅周辺でのハイテク駐輪場は地下を計画しており、「地下」としているが、“他にも整備可能な場所がないか検討する”のは、地下、地上いずれも考えられるため、〔施策〕では「地下（地上）」としている。

C委員 : パブリックコメントの意見に対する考え方は、出来るだけ丁寧に返した方がいいのではないかと。意見1で、“この計画が完成することによって何がかわるのでしょ
うか?”という意見に対して“自動車の過度の利用を控え、各交通手段の連携を
図っていく”ということは、間違いではないが、例えば、「計画策定の目的」にある
“今までは行政が主となって進めてきたが、今後は市民ひとりひとりが主体とな
る”、“人口減少等社会の変化に対応した交通計画をめざす”ということも示した方
がいいのではないかと。この計画をPRするという事ではないが、この計画を策定
することによって、“各交通手段が連携を図る”ことだけだと捉えられるのでは
ないかと。“バスが便利になると自転車に乗る人が減る、自転車が便利になるとバスに
乗らなくなる”というバランスの話の意見に対して、“サイクル&バスライドを推
進する”という回答になっているが、“自動車の過度の利用を控えてニーズにあ
った自転車やバスの利用を推進していくことに加えて、バスと自転車の利用も連
携を図りながら、より便利にしていく”という答え方が適切なのではないかと。
意見3では“バスが時間通りに来ない、時刻表通りにバスに来てほしい”という
意見に対して、バスロケーションシステムのことについての回答しかされていない
が、バスロケーションシステムも含めてバスの利便性を高めるという回答でもよ
いのではないかと。

事務局 : 表記の仕方については、内部で調整をさせていただきます。

会長 : 非常に重要な意見だと思う。バスと自転車の話については、p. II-23 [サイ
クル&バスライド駐輪場の整備]に示されており、ひとつめには“バスの利用促
進を図ります”とあるが、ふたつめには“バスに乗り換えるかそのまま自転車
を利用するのかを選択しやすく”とあって、一体どっちなのか分りにくくなっ
ている。文章を書き直すということではないが、ここはどう理解したらよいか。
サイクル&バスライドでどうしようとしているのか。

事務局 : サイクル&バスライド駐輪場を整備することで、最寄りのバス停まで
自転車で行くか、目的地まで自転車で行くかは、それぞれの利用者が自分
にあった交通手段を選べるということである。それによってバスの利用者
も自転車の利用者も増えると考えている。

C委員 : 今まで車を利用していた人や駅まで車で送ってもらっていた人が、
サイクル&バスライド駐輪場が整備されることによって、自転車が
増えると考えている。この意見に対しては、基本的には車社会から
転換していくということがあり、そういう回答がいいのではないかと
思う。今の考え方の表現では、サイクル&バスライド駐輪場
だけが目についてしまう。

D委員 : 伊丹市の考え方として自動車からの転換が重要だと書かれて
いるので、その特徴

的な取り組みのひとつとしてこのサイクル&バスライド駐輪場を書けばいいのではないか。

事務局 : いただいた意見を参考に、考え方の表現を修正させていただく。

会 長 : 他にご意見がなければ、今いただいた軽微な修正をした上で、明日この計画(案)で市長に答申をするということよろしいか。

<委員の承諾を確認後、会長が答申書に押印>

会 長 : 委員の皆様、今年の6月から長期間ありがとうございました。以上で委員会の議事はすべて終了したので、以後の進行は事務局にお返しする。

<事務局より今後のスケジュール等を報告後に閉会>